

マツダ ズームズーム スタジアム広島



所在地：広島県広島市南区南蟹屋二丁目3番1号
 敷地面積：50,472.42m²
 建築面積：22,964.48m²
 延床面積：39,524.01m²
 構造・規模：RC造、PC造、S造 地上7階、地下1階建
 グラウンド：規模/右翼100m、左翼101m、中堅122m
 面積/12,710m²
 建築主：広島市
 設計・監理：仙田 満+環境デザイン研究所
 施工：建築/五洋・増岡・鴻治建設工事共同企業体
 電気/中電工・日本電設・長沼建設工事共同企業体
 完成：平成21年3月

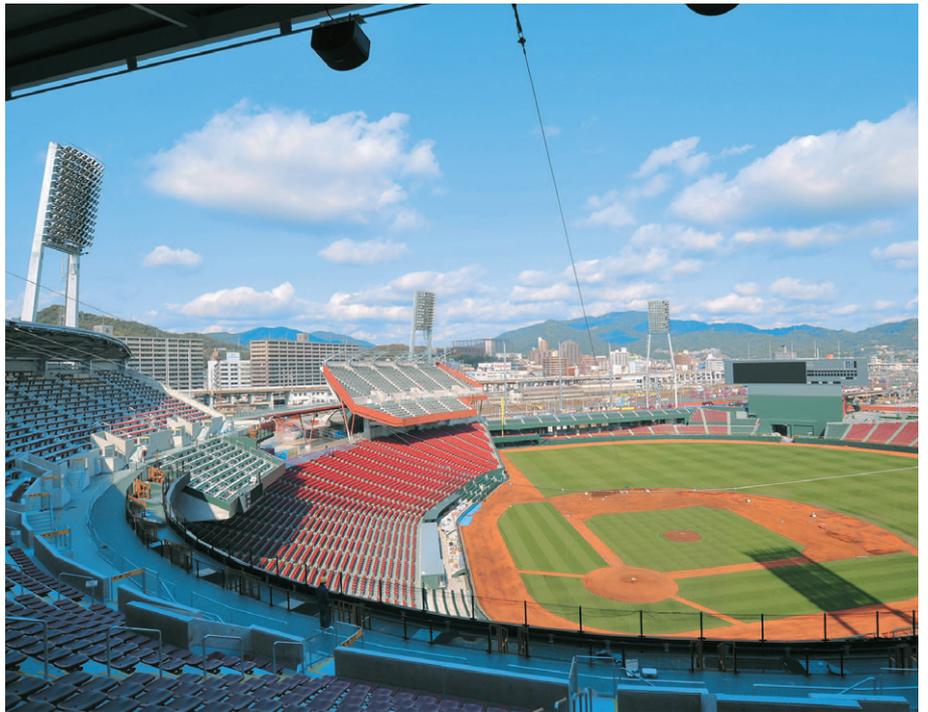
JR広島駅東側に完成した広島東洋カープの新たな本拠地。ホームチーム側の右翼席を広くした左右非対称の大リーグ様式となっています。約48～56m高の照明塔6基にメタルハライドランプ・キャドミラー A 投光器を計648台採用し、選手にも観客にも快適な競技環境を創出しています。

総天然芝を備えたオープン球場。 砂かぶり席などを楽しめる多彩な 観客席を設置

プロ野球・広島東洋カープの新たな本拠地となった「マツダズームズームスタジアム広島」。JR広島駅近くの貨物ヤード跡地に建設された新球場は、総天然芝グラウンドを備えたオープン型で、グラウンドの開放感、通風、街との一体感を確保するため北側のJR側へ大きく開く形態となっており、これにより球場の楽しさをJR車窓からも感じとることが可能となっています。最大観客数は33,000人。ダイナミックなプレーを堪能できるよう、選手と同じ目線の高さで楽しめる砂かぶり席やボックスシート、パーティフロアなど、多彩な観客席が設けられています。

6基の照明塔に高演色で高効率・長寿命のメタルハライドランプ投光器を1基当たり108台搭載

ナイター照明設備は、グラウンド面に強い影が生じないようにし、空間の照度分布を良好にして、投手の投げる球筋がよく見えること、打者の打ったボールの方向がよく見えること、グレアを低減させることを配慮し、約48～56m高さの鉄塔を6カ所に配置しています。光源は、ユニフォームの色や選手の顔色が生き生きと再現できる1.5kWメタルハライドランプを採用し、高演色形と高効率形を混光することにより、省エネを実現しながらハイビジョン放送に対応したRa80を確保しています。投光器は、演色性を損なうことなく可視全域にわたリフラットな高反射を維持する増反射膜処理のキャドミラー Aを採用し、設置台数とランニングコストを低減させています（照明塔1基当たり108台、6基で計648台）。また、近隣への配慮から鉄塔No.1、4、5、6にはルーバを適宜設置し漏れ光を低減させています。プロ野球利用時の水平面平均照度（初期）は、内野約3600lx、外野約2500lx、バッテリー間約4200lxを確保し、各鉄塔からの異なる光を混ぜり合うようにし、内野から外野への照度変化を滑らかにして均斉度を高め、プロ野球JIS照明基準を十分満足した良好な競技環境を創出しています。公式競技や一般競技には、2/3点灯及び1/3点灯に対応できるように設定されています。



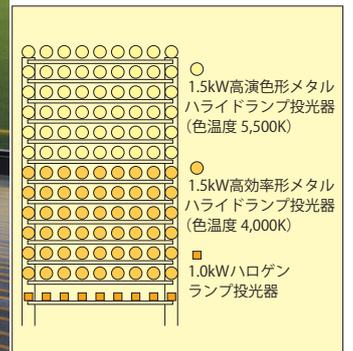
2階正面観客席よりスコアボード方向を望む昼景。約48～56m高さの照明塔6基による全周配置を採用



スタンド後方に設けられた照明塔No.1とNo.6の点灯時



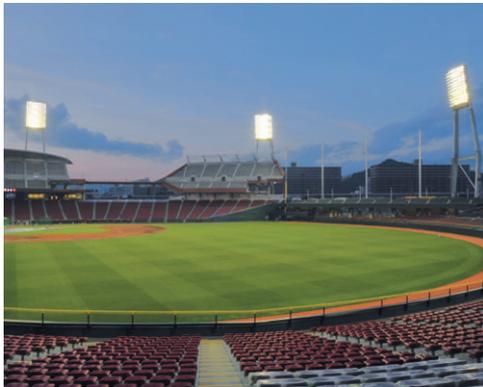
照明架台に12段×9列にして設けられたHID投光器



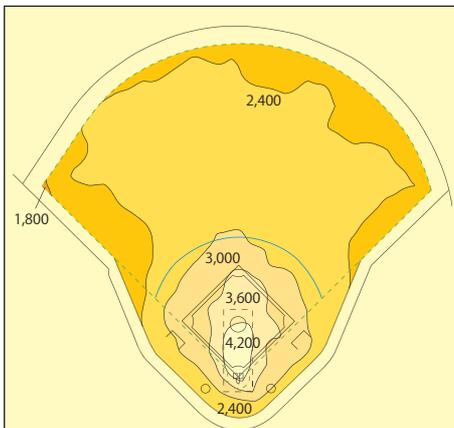
照明架台の投光器配置図



2階ライトスタンド観客席より内野、外野ダイヤモンドを望む（全点灯時）。内・外野の総天然芝を鮮やかに再現（野球が開催されている雰囲気もJR車窓からも見られる）

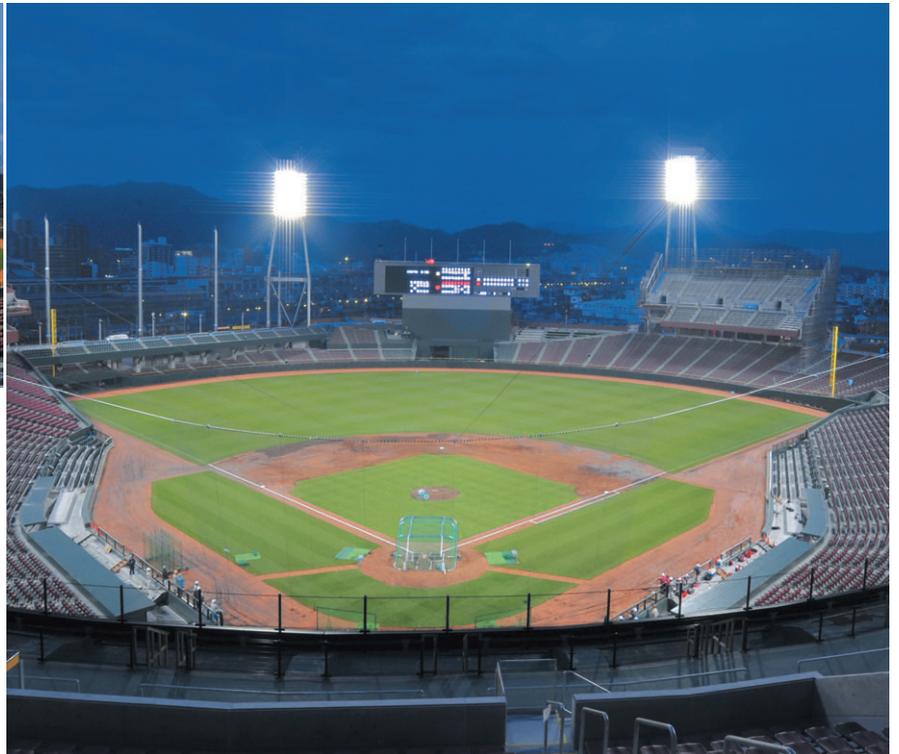


外野観客席側より内野方向を望む（全点灯時）



全点灯時測定値	
水平面平均照度（初期）	均斉度（最小／平均）
バッテリー間 4,245 lx	内野 0.78
内野 3,598 lx	外野 0.70
外野 2,487 lx	

照度分布図



2階正面最上段観客席よりダイヤモンドを望む（全点灯時）

主な照明器具一覧

設置場所	器具名	形名	台数	ランプ
屋外	投光器（狭角形）	HT-15265X	392	1.5kWメタルハライドランプ（高演色形、高効率形）
	投光器（中角形）	HT-15265M	256	
	フード付ルーバ	ZL-1550F(K)	224	—
	ハロゲン投光器	IT-10028M	22	1kwハロゲンランプ
	ハロゲン投光器（改）	IT-10028M / ピッチ120mm	33	